

学校 教育 目標	「光の子・力の子」 ～自分の輝きを見つけ、自分の力を発揮し友とまちと共に生きていく子～ ○基礎・基本を大切に、学ぶ楽しさを感じて、共に学び合う子を育てます。(知) ○自他のよさを見つけ、礼儀や規律を重んじて自分も友も大切に育てます。(徳) ○健康や安全の大切さに気づき、心身ともに健やかな子を育てます。(体) ○地域を愛し、社会の一員として自分で考え行動できる子を育てます。(公) ○様々なかかわりやコミュニケーションを通して、視野を広げていく子を育てます。(開)				
	創立 59 周年	学校長 菅原 和子	副校長 徳永 久美子	2 学期制	一般学級：12 個別支援学級：5
学校 概要	児童生徒数： 303 人 主な関係校： 泉が丘中学校、下和泉小学校、伊勢山小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	泉が丘中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<自分づくりに関する力> ・主体的に関わる力 ・自分を客観視する力(メタ認知力)  <協働して課題解決する力> ・問いかける力・判断する力 ・考えを広げたり深めたりする力	泉が丘中 下和泉小 中和田南小	○進んで人や地域と関わり、自己有用感を高め、自他のよさに気付く子ども ○主体的に学び、自ら学びを広げ、深めることができる子ども  ○合同授業研究会を実施し、取組目標に迫る授業場面での具体的な姿について教科ごとに検討、共通理解を図る。 ○学校運営協議会、地区別懇談会で情報交換を行う。 ○児童生徒交流日において、児童が中学校を訪問し、授業参観・生徒会紹介・部活動見学を実施する。 ○ブロック専任会で、特別支援教育について各校の実践報告・情報交換。中学校ブロック共通の取組を行う。

中期 取組 目標	○どの子どもにとっても温かい学級づくりを目指し、児童理解に努めるとともに、子どもの考えを生かす授業づくりに取り組みます。
	○子ども一人ひとりが自分らしさを発揮するとともに、他者を理解しながら協働的に問題解決する学びを充実させます。
	○自分の思いや考えを主体的に表現することでコミュニケーションを図り、他者や社会とつながる子を育てます。
	○保護者、地域の方々、学校協力者との協働による教育活動の充実に努めます。

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①「主体的・対話的で深い学び」を目指し、問題解決学習のための単元構成や学習方法などを工夫する。 ②今年度も「情報教育」の分野で授業研究を行う。「主体的に学び、自分の考えをもち、伝え合う子どもを目指して」情報活用能力を高め、協働して課題解決する力を育てる授業づくりを目指す。
担当	重点研推進委員会	
徳	人権教育 (豊かな心)	①道徳や人権学習の取組などを中心に、日頃から児童の人権を育む教育に取り組む。児童一人ひとりが自他の違いやよさを認め合う雰囲気を目指す。 ②たてわり活動「みなみタイム」を意図的・計画的に取り入れ、それぞれの学年の児童がめあてを意識し、主体的に関わる場面を設定していく。ともによりよい生活を作ろうと協力し合う心を育てる。
担当	B部会(人権福祉)	
体	健康教育	①運動委員会を中心に、児童が主体的に取り組む内容を決め、体力向上のための活動や運動に興味をもつ取り組みを行う。 ②児童の学校保健委員会では「けがの予防」をテーマに話し合いを行う。丁寧に安全指導を継続し、児童が安全に気を付けて健康的に日常生活を送れるようにする。
担当	体育部・体力推進	
公開	地域学校 協働活動	①5年生の稲作体験活動、2年生のサツマイモの栽培活動、4年生の相模風作りなど、総合的な学習の時間や生活科の時間で地域の方々や積極的に関わり、地域の方々の思いに触れ、地域への誇りや愛着をもてるようにする。 ②学校運営協議会の中で、地域の方々から見た児童の実態や成長への願いなどについて情報交換を行い、地域全体で児童を育てる環境を整える。
担当	B部会(稲作)・総合部	
いじめへの対応		①児童支援専任を中心にいじめの未然防止に向けて、朝会や朝の会の場で啓発を行ったり、横浜子ども会議の話し合いを生かして、児童自らがいじめをなくすための取組について考えたりして、いじめは許さないという学校風土を醸成する。また、日常に潜むいじめについて積極的に認知し、児童の心情に寄り添いながら解消に向けて組織的に取り組む。 ②いじめ防止対策委員会を全職員で行い、情報共有をして組織的に対応する。
担当	B部会(児童指導)	
人材育成・ 組織運営(働き方)		①校務分掌や会議の内容を精選し、働き方改革に取り組む。ICT機器を活用してペーパーレス化を図る。 ②経験の少ない教職員が不安なく指導に当たれるように、メンターチームを中心にコミュニケーションを図り、学校としての指導力を高めていくことを目指す。
担当	メンター・教務	
特別支援教育		①ステップアップルームを適切に運用することで、多様な学びの場を保障し、より安心して登校したり、より個に応じた学習の支援をしたりできるようにする。児童の情報を共有し、支援計画を立てるなど、特別支援コーディネーターを中心に学校として組織的に特別支援教育に取り組む。
担当	特別支援教室運営	
児童生徒指導		①「中和田南スタンダード」を全職員で共有し、授業や給食・掃除や休み時間などの指導の方法についてどの教職員も同じように指導できるようにすることで、児童が安心して学校生を送ることができるようにする。 ②おはなしタイム・YPアセスメントなどを活用して児童が思いを伝えたり、相談したりできる機会を設け、児童指導上の課題に対して早期発見・早期解決につなげる。
担当	B部会(児童指導)	
情報教育		①ICT機器を効果的に活用することで、情報活用能力と自分の思いや考えを豊かに表現する力を高める。 ②各教科の中で情報活用能力を育成するとともに、情報の発信の仕方や個人情報などに関わる情報モラル教育を進めていく。
担当	情報教育・視聴覚部	
幼保小連携		①子どもの主体性を生かして幼稚園と交流したり、見通しをもって中学校へ訪問したりすることを遠し、自己を見つめ直し、自己肯定感を育む。 ②接続期カリキュラムを作成、実践し、幼稚園保育園と交流を図り、目指す子どもの姿や指導感を共有する。
担当	幼保小連携部	